

日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書 *“The Environments of Galaxies: from Kiloparsecs to Megaparsecs”*

渡航先—ギリシャ

期 間—2004年8月5日-12日

ギリシアのクレタ島で行われた研究集会に参加し、口頭発表をしてきました。私にとって初めての海外研究会で、しかも口頭発表なのでとても緊張しました。

出発前、指導教官の山田 亨先生、研究員の川口俊宏さん、鍛冶澤賢さんに発表の練習を聞いてもらいました。英語の原稿は作っていたものの、すぐにつまっとなってしまい日本語で「えーっと、えーっと」と連発してしまい、結果は散々でした。ここでは (1) 何が面白いのかを強調する、(2) 「えーっと」は言わない、(3) 話の流れがわかるように物語風にする、というアドバイスをもらいました。出発直前には山田先生から「とりあえず元気に挨拶してこい!!」と行って送り出してもらいました。

発表が第一日目に割り当てられていたこともあり、少し早めに現地入りしました。しかし部屋で持ってきたノートパソコンでスライドを編集しながら練習しようかと思ったら、何と電源のコンセントの穴が丸で三つもあります。これでは持ってきた日本用のアダプターは使えません。2時間もすると充電電池が切れてしまいました。このまま部屋で練習を続けても良かったのですが、せっかくクレタ島に来たということもあるので、海で練習することにしました。海では平泳ぎをしながら、何度も大声で繰り返し練習しました。足下にはたくさんの聴衆（小魚）が泳いでいました。

発表当日になりました。緊張で物がのどを通らなくなってきました。持ち時間は発表 20 分に充てて質問時間が 10 分、合計 30 分あります。いよ

いよ発表です。聴衆の中には数日前に知り合った大学院生やポスドクの人たちの顔が見えます。少なくともこの人たちには分かってもらえるように話そうと思いました。まずは元気よく挨拶です。深く息を吸って、できるだけ笑顔で大声で「グッドアフタヌーン!!」。苦笑している人がちらほらと見えます。どうにかイントロを乗り切り、本題に入りました。ここでまた話の流れを見えやすくするために（イントロでもう発見したと言っているのに）聴衆に問いかけました。「(英語で)果たして私たちはそれを発見できたのでしょうか?」少し見回し間をおいてから「(英語で)答えは何と発見したのです!」今度はほとんどの人が苦笑しています。結局日本語の「えーっと」も何度も出てしまいましたが、発表はゆっくりとながらどうにか最後まで辿り着きました。午後の眠い時間帯にもかかわらず、居眠りをして聞いていない人は見当たりませんでした。

発表の後はすぐにお茶の時間でした。ここで思いがけないことにいろいろな人たちが「発表が良かった」「分かりやすかった」「すごい結果だ」「これからどう展開するのか」と声をかけてきてくれました。その後は初めての人に自己紹介しても皆「発表聞いたよ、よかったよ」と言ってくれ、少しだけですが話もできるようになりました。

研究会では自分の発表だけでなく、これから研究を進展させていくうえで重要なヒントもいくつかも持って帰ってくることができました。早川基金のおかげで初めての海外研究会に参加し、楽しむことができました。どうもありがとうございました。

松田有一（東北大学）